

講演会要旨

開催日：2003年9月24日（水）

会場：17号館216号室

講演者：永見文雄教授（中央大学文学部）

演題：自然について—ジャン＝ジャック・ルソーを中心に—

ヨーロッパ自然観を探る上で、「ルソー」は外せないテーマの一つであろう。永見教授は、「自然に帰れ」と言った思想家になっている、この誤った解釈を解き明かすことから話し始めた。文化から自然状態への回帰が提唱されたのではなく、文化から別の文化への道が示唆されたのだ。自然にはもはや帰れないことは、承知されていた。

ヨーロッパ思想史を遡り、ギリシャ哲学における「自然」が語られる。次いで日本人の自然観について。

「自然」という語の語義が17世紀の辞典を手始めに様々な辞典で確認される。自然界の自然、そして本性。

18世紀フランス啓蒙のフィロゾフたちの、神あるいは自然をめぐる相克が説かれる。最後は実際に作家のテキスト抜粋を皆で読みながら、ルソーが「自然」に託した思想が究明された。

（佐藤夏生）